

前年度当初予算に対し3億4800万円、率にして3.9%の増額となりました。コロナ禍前までの収税は見込めないものの、国や県の補助を受け財源の確保が図られました。

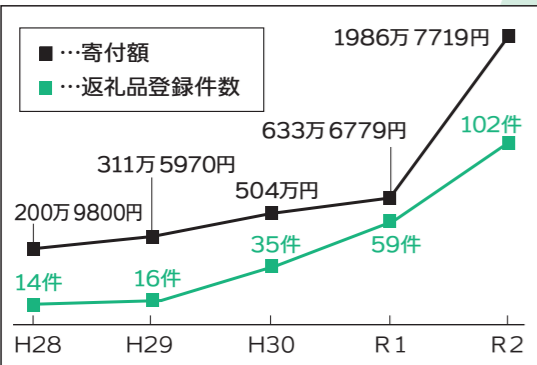
様々な施策により、蒔いた種が確実に実を結び始めています。令和4年度当初予算で定めた「3本の柱」を太く折れないものに育て、更なる町の発展につながると期待しています。

3本の柱

1 予算編成における経常経費の削減

2 まちづくり寄付金(ふるさと納税)

DATA 小川町ふるさと納税寄付額と返礼品登録件数(H28年~R2年)



※総務省ふるさと納税ポータルサイトより
※ふるさと納税は個人からの寄付が対象であり、企業からの受入もある町歳入予算のまちづくり寄付金と金額の相違があります。

寄付額や返礼品の登録件数は伸びている。一方、町民が他自治体へ寄付することによる税収減額も大きい。町外に出ていく額をどう減らしていくか町民の理解を得たい。



ふるさと納税の額が大きく伸びたのはうれしい。地元の商工業の活性化と観光客増に期待したい。
吉野光一さん(錦町)

財源確保の取組

安心して暮らせる持続可能なまち

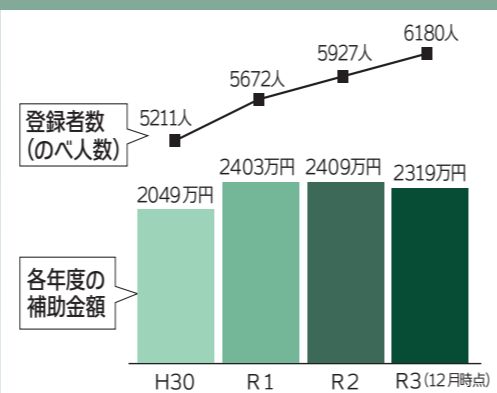
1 橋りょう維持事業

1億5230万円

2 路線バス、デマンドタクシー運行事業

3237万1000円

DATA デマンドタクシー登録者数と補助金額の推移



令和3年度の利用件数はコロナ前の水準まで回復しつつある。令和元年10月の消費税増税と令和2年2月のタクシー運賃改定により、町の負担額は増加傾向にあり、今後住民サービスを低下させず、継続するためには、どのようにしたら良いか検討が求められる。



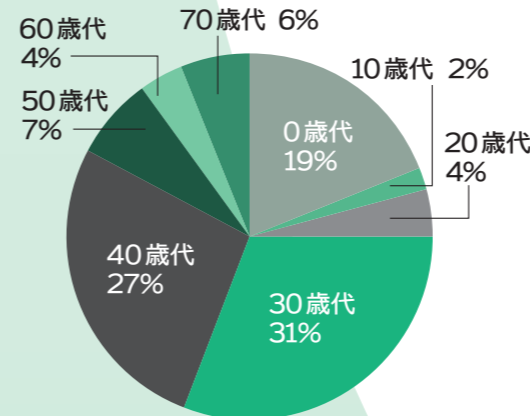
近所で車のない方が「500円で目的地に行ける」と喜んでいました。私も今の制度が良いと思います。
佐藤良行さん(東小川2丁目)

1 新しい生活様式に対応した七夕まつり環境整備事業 341万円

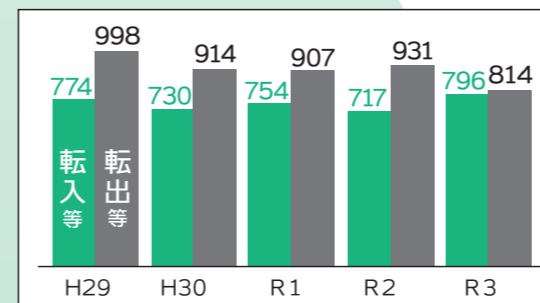
2 子ども家庭総合支援センター事業 315万円

3 学校給食センター整備事業 250万円

DATA 令和3年度小川町への移住者の年齢別の割合



小川町の転出入数(H29年~R3年)



令和3年度は1月末まで10年ぶりに転入超過となっていたが、最終的に18人の転出超過となった。移住サポートセンターの年齢別データでは、移住者の半数以上が40代未満の若い世代となっている。この流れを後押ししたい。



2年前に移住しました。近所の方が子育てを見守ってくれる安心感もあり、のびのび子育てできています。
今村結衣さん、糸葉さん(春日町)

3つのピックアップ事業

1 東小川住宅地内学校跡地利活用推進事業

1億5903万円

国のデジタル田園都市国家構想推進交付金7245万円の財政確保ができた。全国的に注目の官民連携による「学校跡地利活用推進事業」がスタート。住民要望を考慮し、心の支えである校舎を利活用する。

2 観光拠点(道の駅)整備事業

6380万円

新たな関係人口の拡大に向けて事業がスタート。再整備のコンセプトは「手漉き和紙と有機の里」。令和6年度のオープンに向け、設計や測量が始まる。

3 ゼロカーボンシティ推進補助金

230万円

地球温暖化防止につながる設備等を導入した家庭に対して、3項目の補助制度を導入。ゼロカーボンシティ宣言の具現化が始まる。

子育てが広がる

